洗心　第百七十九号　目次

平成二十七年例祭祈願詞　……　小堀桂一郎　1
憲法改正署名の御禮とさらなるお願ひ　……　4
中央乃木會主催講演會
近現代偉人の子孫が語る歴史秘話シリーズ
第四回「父阿南惟幾を憶ふ―武人としての生き方」
……　5
心に生きる乃木將軍（四）……　19
佐佐木信綱博士と乃木將軍　……　22
靜子夫人銅像再建運動について　……　24
復活「乃木うどん」　……　27
奉納・寄贈録　……　31
中央乃木會主催講演會の御案内　……　33
新年ご挨拶　洗心懇談會・中央乃木會　……　34
事務局報　……　36

※佐竹義宣氏「乃木大將と山縣有朋元帥―　遼遠なり皇國の幾山河―」は、筆者都合で今號休載いたします。

「学生会員」募集のお知らせ

当会の趣旨を若い世代に継承していく為、平成二十七年度の理事・評議員会の議を経て「学生会員」を新設いたしました。

【対　象】
満二十五歳以下の新規入会者
（未成年者は保護者の同意を要します）
【待　遇】当会「正会員」に準じます
【会　費】年額一、〇〇〇円

＊入会時に生年月日を確認させていただきます。
＊満二十六歳を迎える年度を以て引き続き会員を継続される方は「正会員」または「特別会員」へ移行していただきます。

お問合せ
中央乃木會事務局（乃木神社内）
〇三（三四七八）三〇〇一㈹
（午前九時～午後五時）

靜子夫人銅像再建運動について

御祭神靜子夫人の生誕地である鹿兒島市において、戰前に建立され、その後撤去された銅像を復元しやうといふ運動が行はれてゐます。

靜子夫人が乃木將軍と共に明治天皇に殉じられた後、夫人の生涯に感銘を受けた同郷出身の村野山人※と妻・須美子が私財を投げうつて、靜子夫人の生誕地である甲突川左岸の緑地に六角の茅屋根に蔽はれた一、二〇メートル程の坐像を建立し、大正八年（一九一九）十一月二十七日（靜子夫人の誕生日）に盛大に除幕式が執り行はれました。

しかし大東亞戰爭が激化する中、軍事資材確保の爲徵集されたと傳へられてをり、現在はその臺座のみが殘されています。

かねてより地元有志の間ではこの銅像復元の話があったものの實現には至りませんでしたが、平成二十四年九月十三日に鹿兒島縣神道青年會が臺座前で齋行した「乃木靜子刀自命遺德顯彰百年祭」が契機となり、縣議會議員や市議會議員、地元の町内會會長等を中心に「乃木靜子夫人奉贊會」（平瀨葉子會長）が結成され、銅像復元に向けて一千萬圓の資金確保を目指して、趣意書の配付、募金活動などの運動を始めてゐます。

同奉贊會では、募金活動の他、靜子夫人に關する情報等の提供をより廣く求めてゐます。詳しくは左記の同奉贊會事務局までお問ひ合せ下さい。

お問合せ先：
乃木靜子夫人奉贊會事務局
〒八九二・〇八三八　鹿兒島縣鹿兒島市新屋敷町五番十五號（船魂神社内）
電話　〇九九・二二六・七四五七
ＦＡＸ　〇九九・二二二・〇一九五
メール　shizuko_housankai@yahoo.co.jp
ホームページ
http://www.geocities.jp/shizuko_housankai/

※村野山人氏は、嘉永元年（一八四八）薩摩藩の出身。

乃木將軍夫妻の殉死の報に接し強い衝撃と感銘を受け、御夫妻一周忌に務めてゐた京阪電車の會社代表の職を辭し、私財を投じて明治天皇の桃山御陵の南麓に乃木神社を創建してゐます。

乃木靜子夫人　湯地お七（お志知）
銅像建立ご協力のお願い

（若かりし頃の靜子とされる写真）

安政六年（一八五九年）十一月六日、鹿児島藩医湯地定之と貞子夫妻の四女（七番目の子）として薩摩国鹿児島郡鹿近在塩屋村（新屋敷二四〇番地　現在の鹿児島市新屋敷町）に出生。幼名はお七、またはお志知。

明治五年、数え十四歳の時に海外留学から帰国した長兄定基に呼び寄せられる形で家族揃って東京赤坂溜池二番地の湯地定基邸に転居、東京府麹町区にある麹町女学校に入学。

陸軍軍人伊地知幸介や野津鎮雄らの勧めにより、長府藩士乃木希典と明治十一年八月二十七日に結婚。名前も「お七」から「鎮」（しず）～「靜子」と改める。軍人の妻として長男勝典を始め、四人の子宝に恵まれる（下の二人は生後間もなく夭逝）。

しかし日露戦争で、長男勝典、次男保典が相次いで戦死。その報を知った母靜子は深い悲しみに暮れたと云う。

明治四五年（一九一二年）七月、明治天皇が崩御、その後（大正元年）九月十三日、乃木邸（現港区赤坂にある乃木神社）に於いて、今上両陛下の御真影を掲げ、供物を捧げ、明治天皇を追って殉死した希典と共に胸を突き死亡した。享年五十四歳（満五十二歳）。

その人生の生涯を明治という時代に捧げた純徳の鑑であり、良妻賢母として讃えられ、千秋万歳其の名を残しました。また大正から昭和のはじめ、子供の名に「靜子」という名が流行ったと伝わります。

（晩年の頃の乃木大将）

その夫人の生涯に感銘を受けた村野山人と村野須美子は私財をなげうって、静子生誕地である甲突川左岸緑地に六角の茅屋根に蔽われた1・20m程の夫人の座像を建立。大正八年十一月二十七日、盛大に除幕式が挙行されるも、先の大東亜戦争時、陸軍より軍事資材確保（鉛弾）として徴収されたと伝われ、現在はその台座のみが残っております。

（大正当時、在りし日の静子像）

以前より地元有志先人方より銅像復元・建立のお話しはありましたが、平成二十三年、若手神職（鹿児島県神道青年会）による夫人没後百年顕彰祭が厳かに斎行されたのを機に、銅像復元の声はよいよ高まり、この度奉賛会を発足せるに至りました。

村野山人翁のご意思を引継ぎ、また文化財・史跡として後世に伝え遺すべく、この主旨をご理解頂き、何卒皆さま方のご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

乃木静子夫人奉賛会　銅像建立実行委員会

顧　問　原口泉（志學館大学教授）
相談役発起人　米盛庄司（米盛建設会長）・宮田一男（船魂神社宮司）
会　長　平瀬葉子
副会長　小島和彦（新屋敷町内会会長）・川窪宏一（かわくぼ住宅）
武昭一（鹿児島県議会議員）・増田毅雄（新屋敷東町内会会長）
佐藤高広（鹿児島市議会議員）・押井啓一（押井会計事務所）・平田富美子
前迫栄二郎（前迫石材）・榎村雪江（鹿児島市議会議員御令室）
理　事　城南校区8町内会

【募金名称】乃木静子夫人銅像建立の募金
【募金目標額】壱千萬圓
【募集期間】平成二十六年九月十三日～同二十九年七月三十一日（予定）
【募金の目的】乃木静子夫人銅像の建立
【設置場所】甲突川左岸緑地公園内
【募　金　額】一口　壱万圓以上　奉加帳に記載致します
五口以上のご協力者様は御名前を石盤に銘記予定
【お振込口座】名義　乃木静子夫人奉賛会（ノギシズコフジンホウサンカイ）
郵便局振替口座　記号　01790　1　番号　142838
（郵便局備え付けの振込み用紙にてご入金出来ます）

お問合わせ
事　務　局　乃木静子夫人奉賛会事務局
〒892-0838　鹿児島県鹿児島市新屋敷町五番十五号（船魂神社内）
電話　099-226-7457・FAX　099-222-0195
【メールアドレス】shizuko_housankai@yahoo.co.jp
【ホームページアドレス】http://www.geocities.jp/shizuko_housankai/
併せまして、静子夫人の情報等ありましたら事務局までご一報ください。

神社新報　平成二十七年五月四日號

乃木大将の夫人
生誕地に銅像を

鹿児島神青

【鹿児島】乃木希典大将の夫人・乃木静子の生誕地である鹿児島市で三月十五日、静子夫人の銅像復元を目指す募金活動が実施され、県神道青年会（光増秀昭会長）の会員四人が参加した。

大正元年九月十三日、明治天皇の御大喪にあたり乃木大将とともにその御跡を慕ひ神去られた静子夫人。生誕地の同市では大正八年、その遺徳を顕彰して座像（高さ一・二㍍）が創建されたが、先の大戦中に軍事資材として徴収されたと伝へられてをり、現在は同市新屋敷町の生誕地に台座のみが残されてゐる。

地元有志のあひだでは、かねてより銅像復元の話があったものの、実現には至らなかったといふ。しかし、平成二十四年九月十三日に同青年会が台座前で斎行した「乃木静子刀自命遺徳顕彰百年祭」が契機となり、県議会議員や市議会議員、地元の町内会会長らを中心に「乃木静子夫人奉賛会」（平瀬葉子会長）を結成。銅像復元に向け、一千万円の資金確保を目指して活動を開始した。

今回、同市の繁華街・天文館のアーケードで実施した募金活動も同奉賛会が主催したもので、同青年会会員はじめ二十五人が参加。募金活動と合はせて趣意書の配布もおこなひ、活動の周知を図った。「静子夫人が鹿児島出身とは知らなかった」との声も聞かれ、銅像が建ってゐた当時を知る人は懐かしさうに「ぜひ実現してください」と激励の言葉を贈ってゐた。

なほ同奉賛会では広く協力を呼びかけてをり、郵便振替での募金も受付けてゐる。振替口座の記号・番号は「〇一七九〇―一―一四二八三八」で、名義は「乃木静子夫人奉賛会」宛て。一口一万円以上とし、五口以上の協力者の氏名は石盤に銘記する予定となってゐる。

問合せは、船魂神社内の同奉賛会事務局（〒八九二―〇八三八鹿児島県鹿児島市新屋敷町五―一五、☎〇九九―二二六―七四五七、FAX〇九九―二二二―〇一九五、電子メールshizuko_housankai@yahoo.co.jp）まで。またはウェブサイト（http://www.geocities.jp/shizuko_housankai/）を参照。